

福祉機器の導入と業務整理による効果

～ノーリフティングケア導入1年目施設の取り組み～

医療法人仁智会

介護老人保健施設ヘルシーケアなはり



1 | プロフィール

介護老人保健施設ヘルシーケアなはり

施設理念

clean(清潔)、careful(気遣い)、comfortable(心地よく)、communication(共感する)を実行し、法人に関わる全ての人々の幸福を最大限に追求する

特徴

小子高齢化、人口減少が顕著に進む高知県東部で、超強化型老健、短期入所療養介護、通所リハビリに加え、居宅支援事業所、訪問介護事業所、サービス付き高齢者専用住宅、有床診療所を展開している。



ノーリフティングケア

令和1年12月から取り組み開始

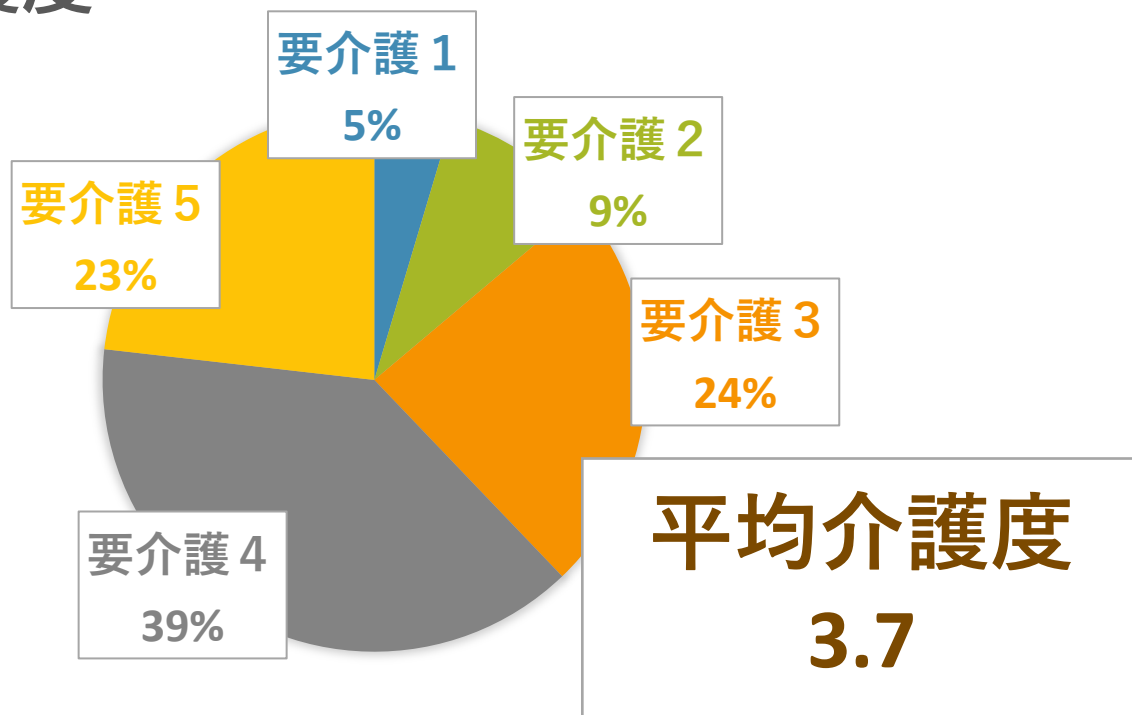


入所者（短期入所者を含む）の状況

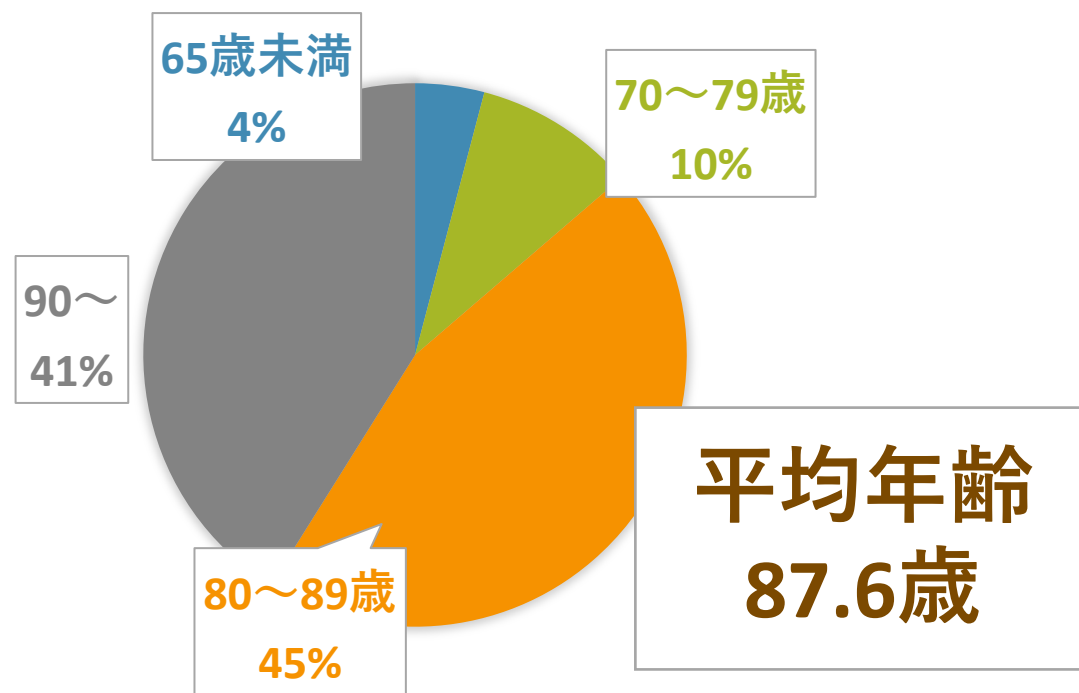
(R2.10 ~12月)

入所 81床
(短期入所も含む)

介護度



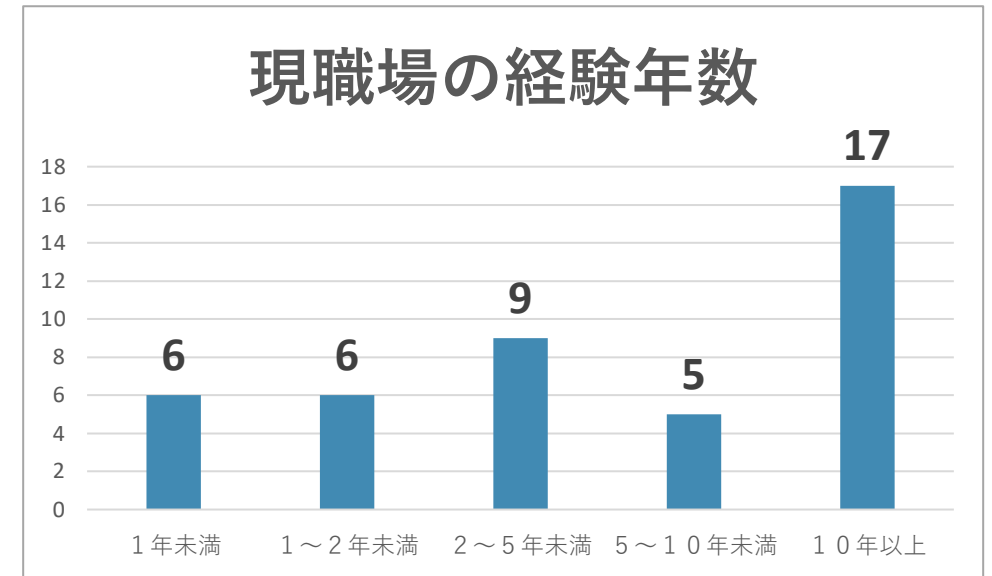
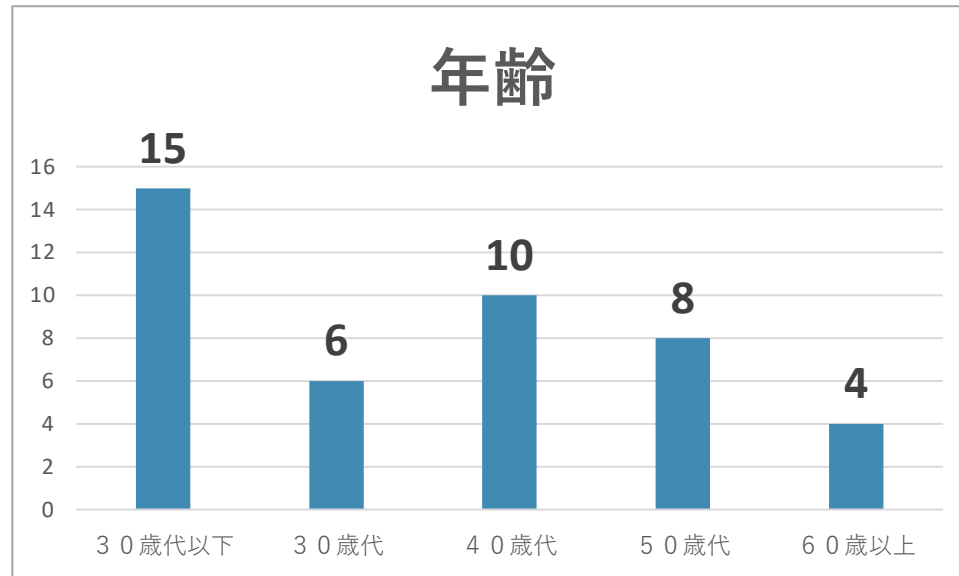
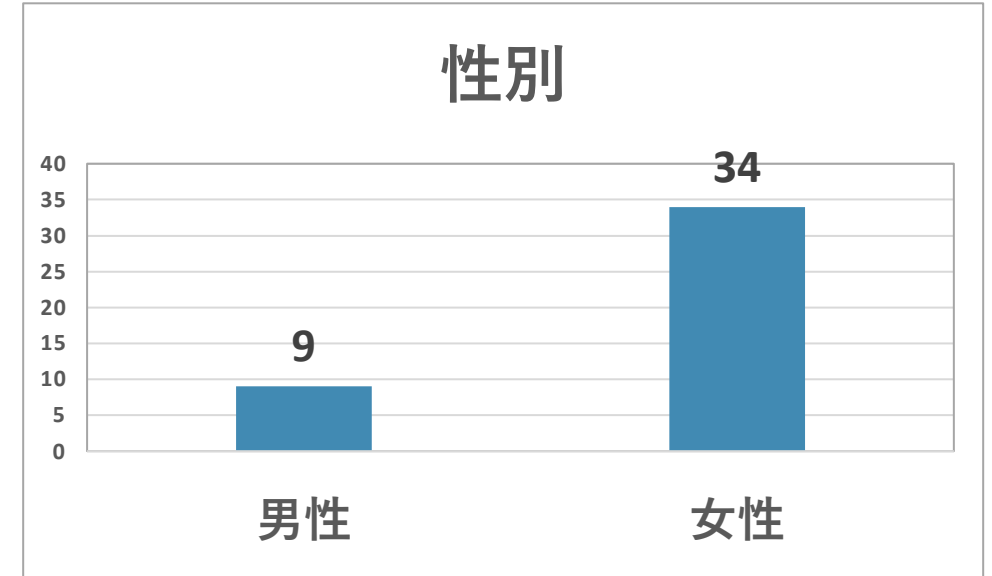
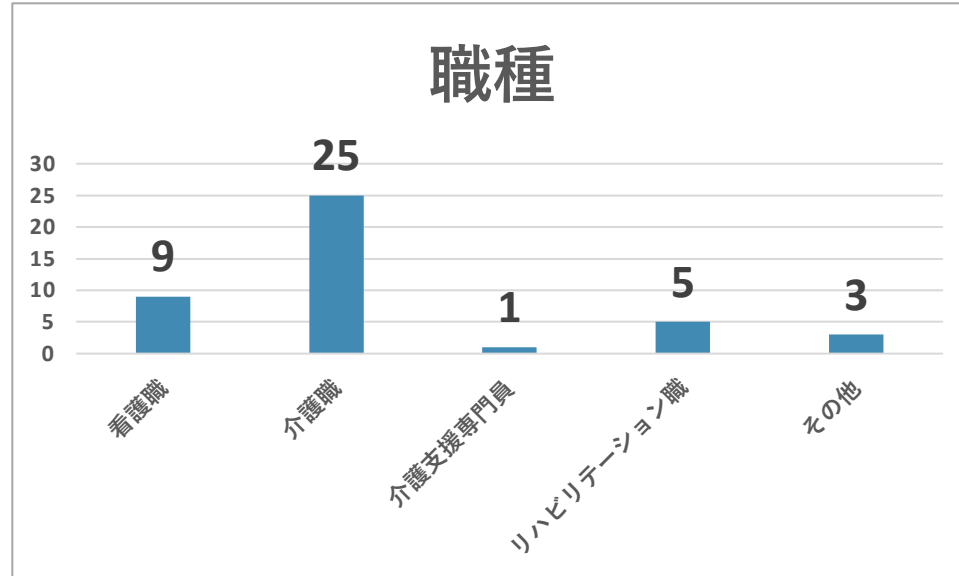
年齢





職員構成

◎ 入所に関わる職員：43名 ◎ 常勤40名（外国人技能実習生3人） 非常勤3名





入所に関わる職員の一日の内勤者数

◎ 平日

	最小人数	最大人数
日勤帯	6 名	18.5名 (看介護13.5名)
夜勤帯	5 名	5 名

◎ 日曜・祝日

	最小人数	最大人数
日勤帯	6 名	9 名
夜勤帯	5 名	5 名



当施設のノーリフティングロングゴール

利用者や職員の身体的
精神的苦痛がない

ケアの質を均一して提供できる

**働きやすい職場、
利用したい施設を作ること！**

地域実情に合わせた、
在宅生活を支えられる



利用者により沿ったケアを提供
できる

ノーリフティングの取り組みは令和1年12月から開始したばかりの新米施設

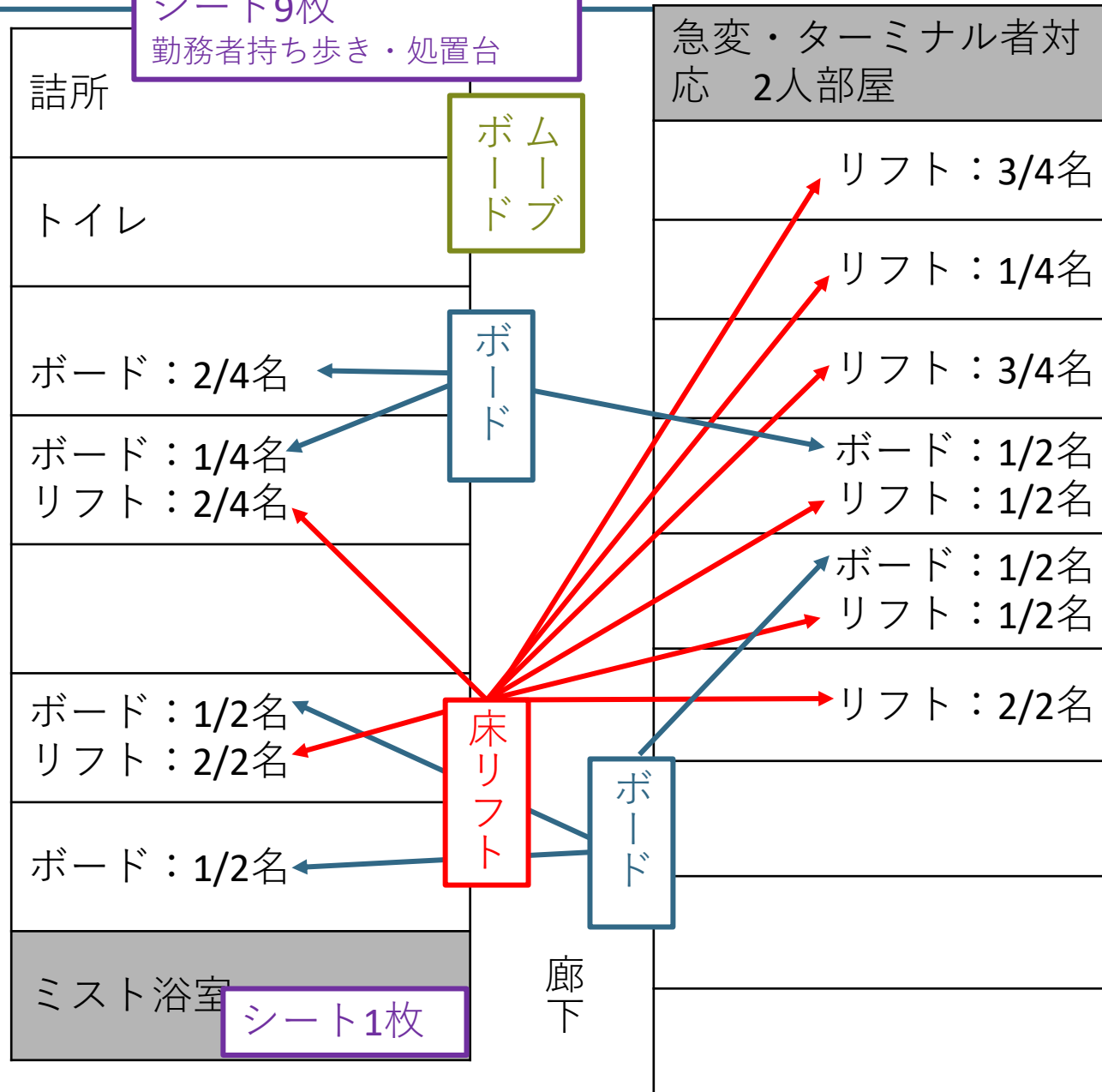


特徴

- | | 保有数 | 対象者数 |
|-----------------|-----|------|
| 床走行リフト | 1台 | 15名 |
| スライディング
グボード | 2枚 | 6名 |
| スライディング
グシート | 10枚 | 全員 |

問題点

- シート9枚
勤務者持ち歩き・処置台





課題 2 重度者対応フロアの問題② 「シーツ交換」

	取り組み前
所要時間	約 3 時間
フロア職員	・ 他部署のリフトを借りにいく ・ 利用者を一気に離床 ・ シーツ交換後、入床介助
パート職員1名 年齢：50歳後半 業務：環境整備	離床中にシーツを交換



課題3 重度者対応フロアの問題③ 二次障害を伴う利用者が多い



* 写真は評価のために、マットは圧分散が低いものを使用



課題4 自立支援対応フロアの問題①

利用者の能力を発揮できない環境と意識の問題

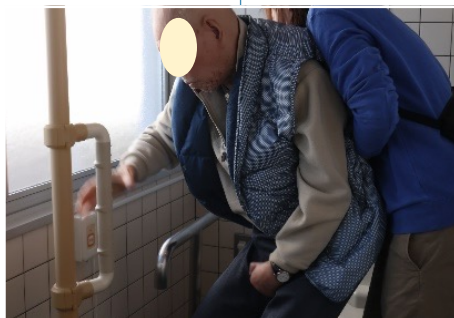
特徴

- ・ 44床
- ・ 在宅復帰予定者や短期入所療養介護利用者が集中



問題1 立位訓練

「手すり＋壁向き」。職員が腰を持ち上げる



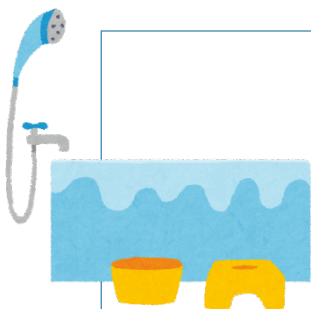
問題2 トイレの移乗はお互いが不良姿勢

問題3 トイレまで15mを歩いて片道20分…。もう限界か…。



課題 4 自立支援対応フロアの問題②

利用者の能力を発揮できない環境と意識の問題



問題 4 入浴

- ・入浴は移乗回数が多い
- ・素肌の介助は重介護で負担がかかる



問題 5

業務優先になると、つい職員のペースで介護をしてしまう



－ 取組み **1**

職員の負担をなくしゆとりを作る

1) 業務効率の向上

2) 職員の腰痛発生率を14%→10%へ

－ 取組み **2**

利用者の二次障害改善や自立支援の促進



機器の導入

重度者対応フロア

対象者：日常生活自立度C2の利用者



天井走行リフト
6台



ポジショニングツール
18枚

自立支援対応フロア

対象者：日常生活自立度B2の利用者



サラステディ
3台



リターン
2台



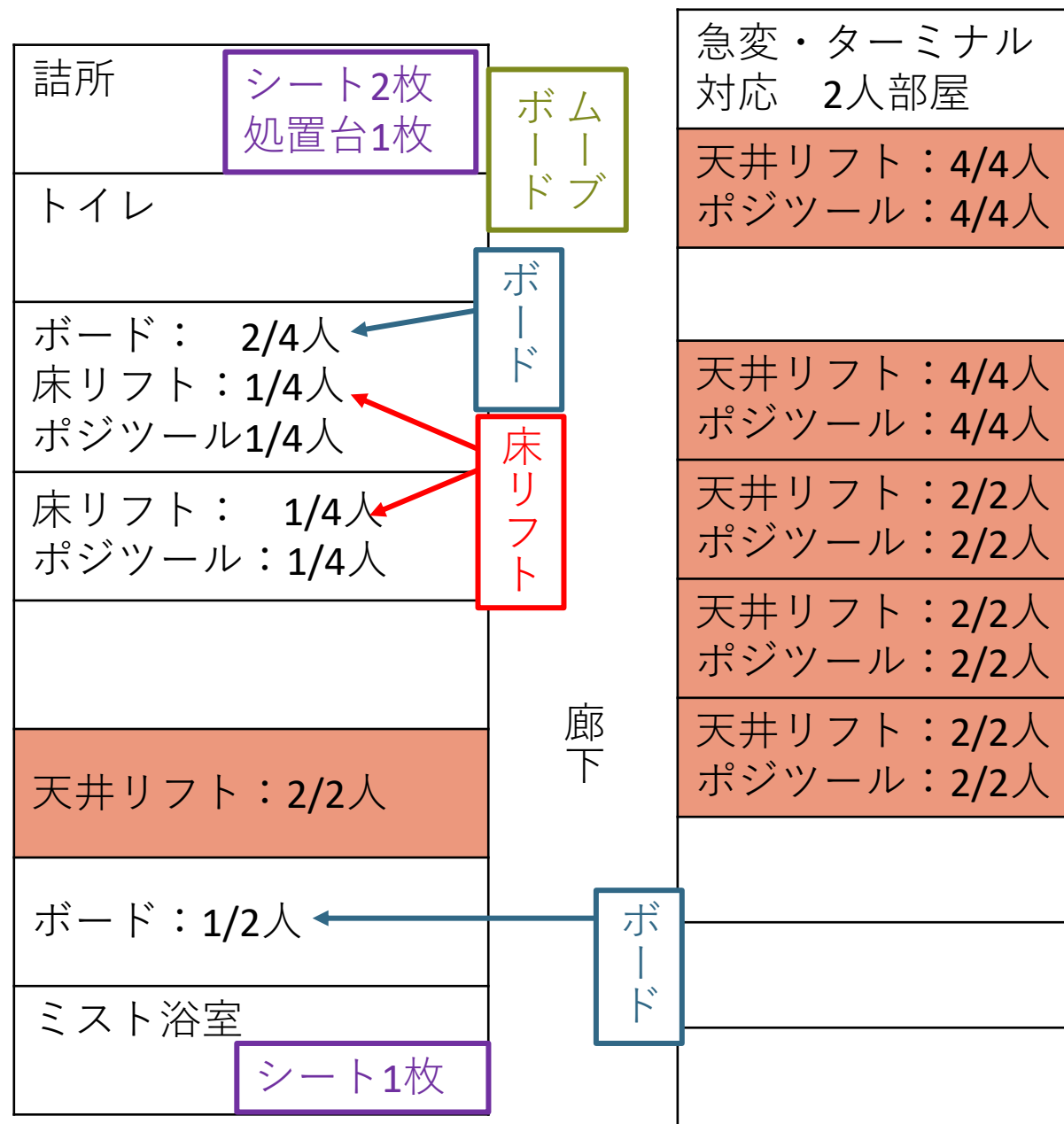
重度者対応フロア：導線・環境の見直し

見直し項目

- ・利用者の安楽と能力を考慮して使用機器の再選定
- ・居室を変更

	保有数	対象者数
天井走行リフト	6台	16名
床走行リフト	1台	2名
ポジショニングツール	18枚	18名
スライディングボード	2枚	3名
スライディングシート	4枚	適宜

*グローブは各自持ち





重度者対応フロア業務の見直し：1名で行えるシーツ交換に転換

	取り組み前	業務整理
所要時間	3時間	3時間→5時間
フロア職員	・他部署リフトを借りる ・全員離床介助 ・シーツ交換後入床介助	
パート職員1名	離床中にシーツを交換	・リフト使用の習得 ・業務内容の組み換え

POINT！

機器使用の不安や体の負担を管理
職が指導・確認しながら習得



ポジショニングツール・天井走行リフトの使用設定

- ◎ 体位変換
- ◎ 移乗
- ◎ リハビリ
- ◎ オムツ排泄介助

POINT !
安全な1名介助

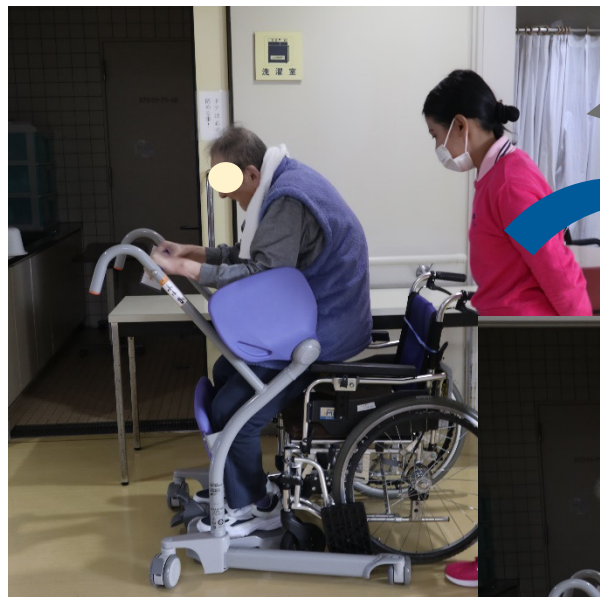




スタンディングリフトの使用設定①

- ◎ 立位訓練
- ◎ 体幹訓練

POINT!
利用者のタイミング
に合わせて待つ！。





スタンディングリフトの使用設定②

- ◎ トイレへの移動・移乗
- ◎ 入浴への移動
- ◎ 入浴時の更衣・洗身、洗髪・移乗

POINT!
利用者のタイミングで立つ



POINT!
お互いに良肢位で行う



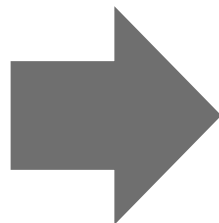


リスク調査の実施

取り組み開始2週間後に、リスク調査を実施

一例：

ポジショニングツールを使ったオムツ交換がうまくいかない



対策：勉強会開催



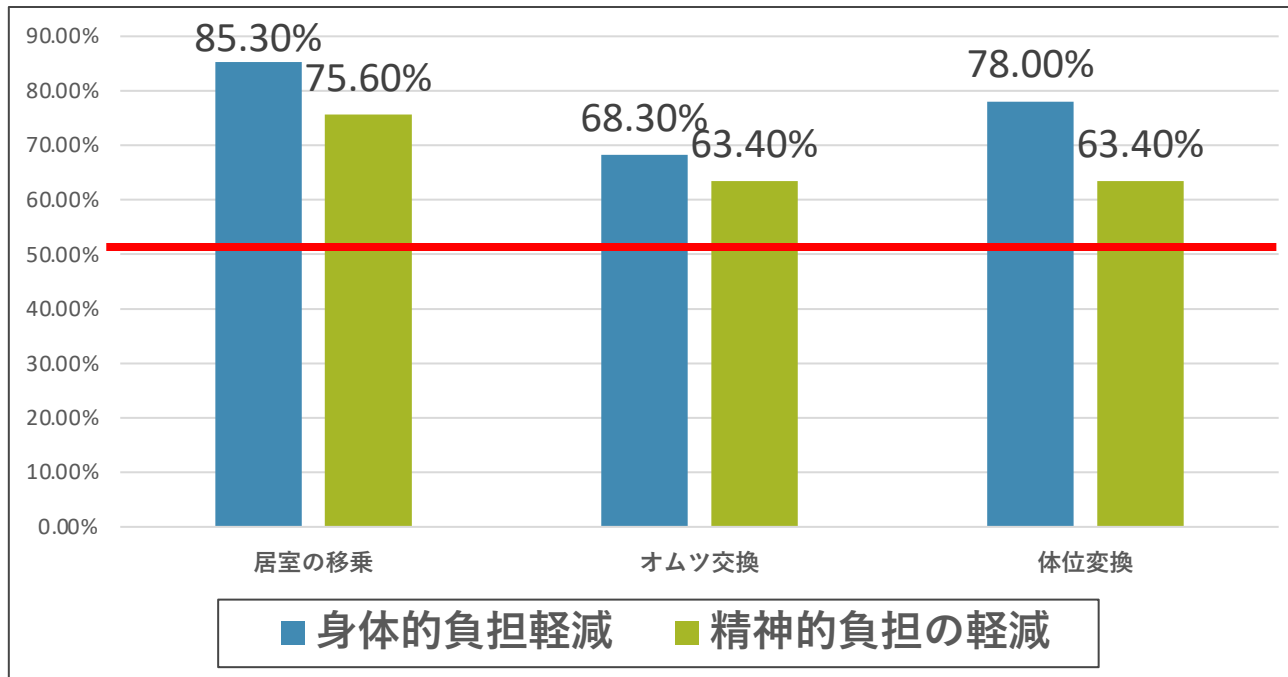


結果 ①ポジショニングツール・天井走行リフトによる業務効率と負担感の変化

◎ 日勤帯の業務行為時間と対応人数の変化

	業務行為時間	対応人数
移乗・体位変換	-179.95分	-4名
オムツ交換	+46.55分	-3名

◎ 職員の負担が軽減したと感じる割合



1名介助時の身体的負担
が減った

65.8%

職員を探すことができずに
焦りを感じるものが減った

63.4%

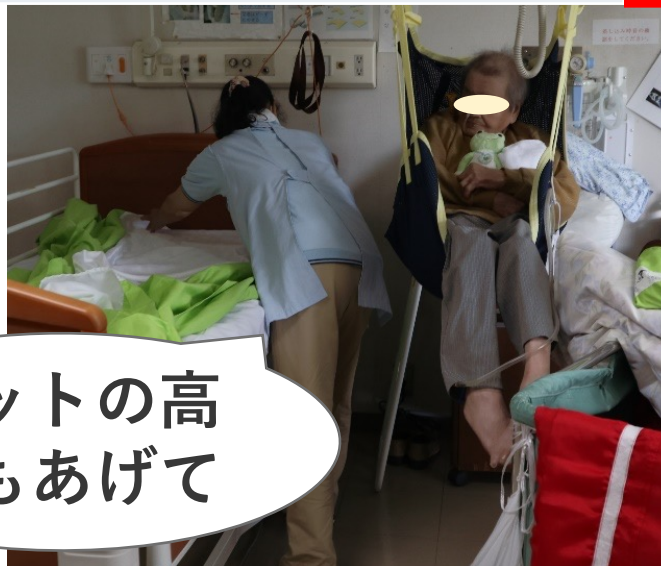


結果 ②天井走行リフトを使用したシーツ交換

	取り組み前	取組後
所要時間	3 時間	5時間
フロア職員	他部署リフトを借りて、一気に離床・入床介助	爪切り、整容等、自発的に別業務に回る
パート職員1名	シーツ交換	離床⇒シーツ交換⇒臥床の一連の流れを1名で実施
業務行為時間		-62.36分



ベットの
高さも
あげて



応援中よ

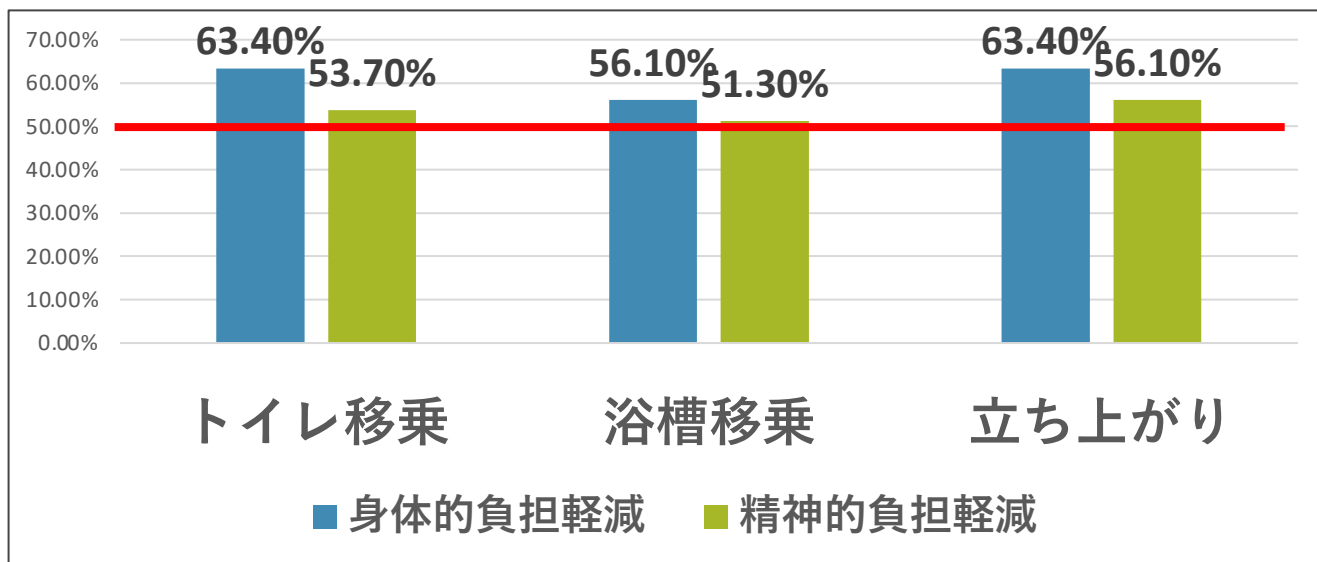


4 | 結果 ③スタンディングリフトによる業務効率と負担感の変化

◎ 日勤帯の業務行為時間と対応人数の変化

	業務行為時間	対応人数
トイレ介助	-292.23分	-1.5名
入浴介助	+147.7分	+1.5名

◎ 職員の負担が軽減したと感じる割合





結果 ④利用者の変化 1

サラスティ



リターン



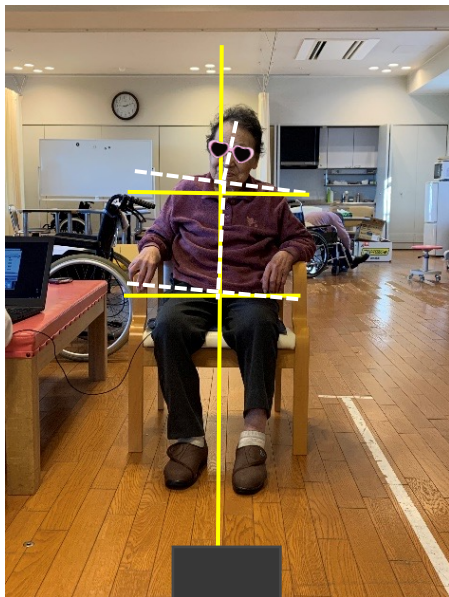
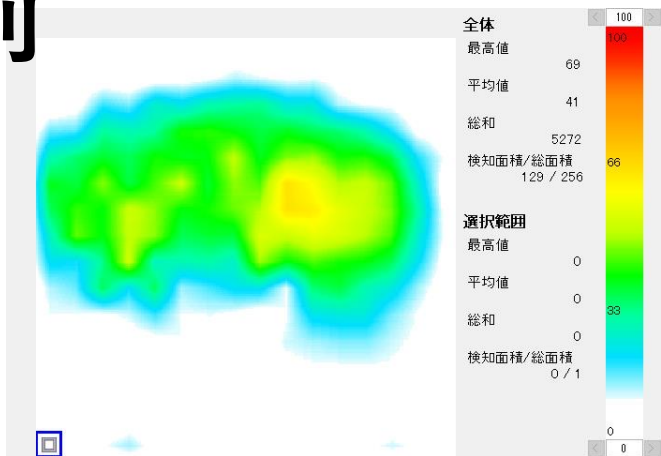
「利用者の変化を感じた」

70.2%

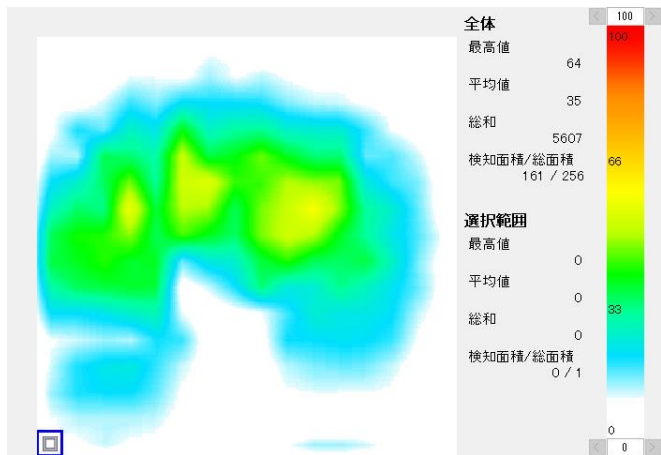
対象者	日常生活 自立度	坐位荷重 単位：mmHg	ADLの変化	QOLの変化 WHO-5精神的健康状態表20点
F	B2	-16	更衣：全介助→一部介助	2点→7点
G	B2	39	トイレ動作：全介助→部分介助 歩行：不可→車椅子で可能	3点→10点
H	B2	-7		6点→9点
I	B2	-17	移乗：全介助→部分介助・監視	3点→3点
J	B2	—	食事：部分介助→自立 車椅子の移動→介助歩行	2点→4点



実施前



実施後

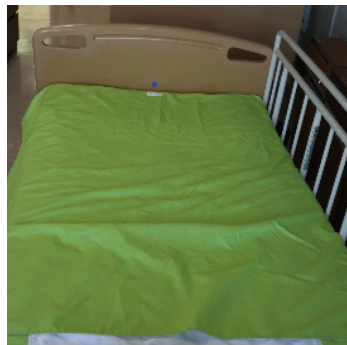




結果 利用者の変化 2



天井走行リフト



ポジショニング
ツール

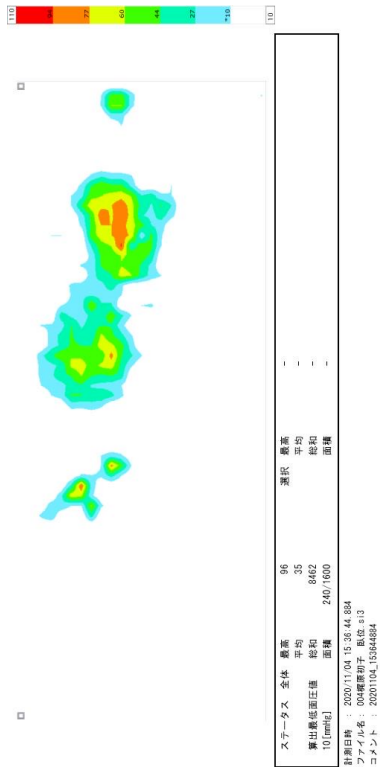
職員からみた変化

- ・抵抗感が減った
- ・苦痛表情が少なくなった
- ・座位の姿勢がよくなった

対象者	日常生活自立度	臥位荷重 (mmHg)	座位荷重 (mmHg)	ADL	QOL
A	C2	0	-13	—	—
B	C2	-8	-34	—	—
C	C2	-15	-1	—	—
D	C2	14	-84	—	—
E	C2	-31	21	—	—

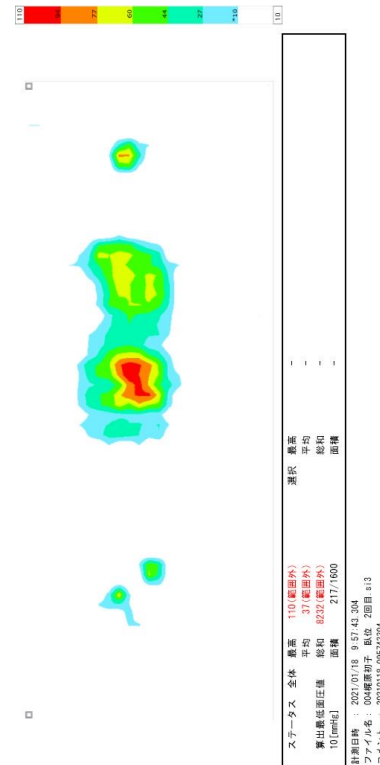


実施前



実施後

最大圧、
設置面積など
は改善なし



捻じれは修正



* マットは検査を行うため、軽度者用のものを使用し、ポジショニングを行っていません



結果 ⑤職員の变化（パイロット事業職員アンケートより抜粋）

◎「ノーリフティングケアの実施に取り組んでよかった」

とてもよかった・やや良かった ⇒

90.3%

◎腰痛発生率

14% → 9.8%

目標達成！

◎取り組み継続の意向

継続して取り組みたいと思う ⇒

90.2%



5 | 効果まとめ



重度者対応フロア

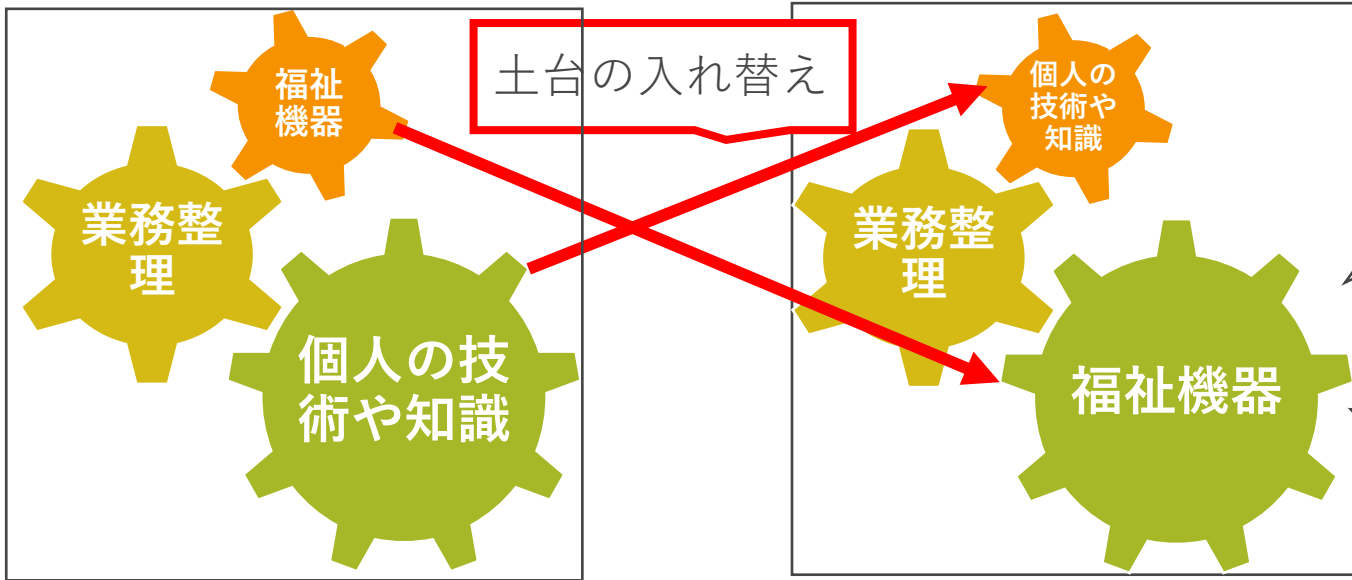
- ✓ 無駄な動き、時間が減った
- ✓ 介護技術が少なく身体的不安がある職員も安全に使用→シーツ交換業務が整理
- ✓ 体位変換、離床入床は1名介助
- ✓ 行為時間が短縮
- ✓ 身体的・精神的負担感の大幅な軽減→ゆとりに繋がる
- ✓ 重度者は、緊張や姿勢の改善が若干みられた

自立支援対応フロア

- ✓ トイレ介助の行為時間の短縮
- ✓ 身体的・精神的負担感の軽減
- ✓ 利用者のADL・QOL向上につながった

職員の变化

- ✓ 腰痛発生率9.8%
- ✓ ノーリフティングケアの継続 90.2%



短期間で効果が得られた

業務整理の効率UP

職員の時間的・精神的ゆとりが生まれる

ケアの質について前向きな話し合いができるようになった



今後の課題

腰痛発生率0%、利用者の自立支援、二次障害の改善を継続するために

1. 事業で使用した機器の導入検討
2. 経費削減を意識した業務整理
3. ケアの質への取り組みの強化
 - ・利用者のスピードに寄り添うケア
 - ・リハビリ実施方法の見直し
 - ・二次障害のあるケーススタディ
4. 業務整理によるゆとりを生かす
 - ・業務内にアセスメント作成をできる環境作り
 - ・アセスメント力やケア技術に向けた教育体制

がんばりよ～

あいよ～

